
第17回 日本水大賞

2015日本ストックホルム青少年水大賞 受賞活動集

審査講評 第17回 日本水大賞委員会 審査部会長 虫明功臣

日本水大賞は、今回第17回を迎えました。審査部会長として、「日本水大賞」への応募状況ならびに審査・選考の経過についてご報告申し上げます。審査部会は、日本水大賞委員会のもとに各賞の候補を選考するために設けられており、水防災・水資源・水環境・水文化等の分野の専門家や学識経験者18名で構成されています。審査は、「日本水大賞」募集要項に記された「対象の範囲」および「審査基準」を基に進められました。各賞の候補となった活動は、日本水大賞委員会に報告され、審議の結果、「大賞（グランプリ）」をはじめとする日本水大賞の各賞が決定されました。

○審査部会特別賞：東京都 特定非営利活動法人 風土工学デザイン研究所 「河川流域の誇りうる風土形成に資する創作活動」

この研究所の創始者は、「ダムの水源地は、治水・利水事業の犠牲の地として負の評価を受けることが多いが、事業の目的には水源地域が誇りうる水文化を形成するというプラスの側面が含まれていることを忘れてはならない」との認識のもとに、それを実現するためのアプローチとして「風土工学理論」なる新分野を開拓してきました。そして、全国各地の水源地域を対象として、そこでの風土資産を地域の宝物として捉え、土地や水の言い伝え、伝統などを広くかつ深く掘り起し、それらを題材とした民話や歌留多、賛歌等を数多く創作し公表しています。これらの中には、演劇化されたり、地域おこしの核にされているものも多く、地元自治体や関係者から表彰状や感謝状を受けているものも多くあります。

誇りある水源地域の形成を目指して、水源地文化を新たな視点で発掘、創造、発信するユニークな取り組みとして、高く評価し、益々の発展を期待します。

平成27年7月

風土形成に資する物語・絵本等創作活動

特定非営利活動法人 風土工学デザイン研究所

1. はじめに

これまでの公共事業はコスト・ベネフィットの効率追求一辺倒でやられてきた。その結果、地域の環境との調和や風土との調和が損なわれる等いろいろ齟齬をきたすようになってきた。

これらの反省の上に私共は、風土との調和を目指す、風土の誇りを形成する風土工学の必要性を訴えてきている。

風土工学のデザイン対象の一つに誇りうる意味空間の設計がある。ソフトな意味空間デザインには物語・民話の創作やイベント、歌謡、歌留多等々がある。

たまたま、北上市が風土資産を活用した、地域の誇りとなる創作民話の公募があり、私共の風土工学理念と合致することより風土工学手法により創作民話『鬼翔平物語』をつくり応募させて頂いたところ、最優秀賞を授与して頂いた。

風土工学研究所では設立以来、誇りうる水空間のデザインに向けて屹々と多くの創作民話や歌留多・讃歌等を作ってきた。

このようなその地の誇りうる風土資産を活用した創作民話や歌留多・讃歌等が良好な水文化形成に大きな役割を果たすものと考えている。

2. 活動の内容

土研センター風土工学研究所（つくば市）（1997年～2003年）、富士常葉大学付属風土工学研究所（富士市）（2000年～2010年）及び、これらの2つの風土工学研究所の活動と実績を継承した風土工学デザイン研究所（千代田区神田）（2001年～現在に至る）において、通算17年余の風土工学の普及啓発活動の一環として全国各地の風土を徹底的に調べ、その地に存する誇りうる風土資産を題材とした民話等を数多く創作してきた。

それらのうち、地元の自治体（市）から創作民話最優秀賞を受賞した作品『鬼翔平物語』（入畑ダム水源

地域の物語）や、当方が創作した民話とその地の地域おこしとして演劇化された作品『蔡温あけみお物語』（羽地ダム水源地域の物語）や、創作民話に因んだ橋梁名やトンネル名が名付けられた作品『徳之山八徳物語』（徳山ダム水源地域の物語）、『阿保千方物語』（川上ダム水源地域の物語）、『小丸川の郷物語』（小丸川発電所水源地域の物語）etcや地域の関係者から命名の由来の素晴らしさから、感謝状や表彰状をいただいた作品、『雷電坊物語・秩父の大雨編・甲武信ヶ岳編』（中津川溪谷の物語・雷電廿六木橋の命名、最優秀賞受賞）、湖名の命名から『ながい百秋湖讃歌』が創作されたもの等があります。

地元の方では是非多くの人に読んでほしいということで、一般市販してもらえないかということで、一般市販定価をつけたものが『徳之山八徳物語』『雫石あねっこ物語』（小柳沢の砂防公園の物語）『満山ガータロー物語』（行入ダム水源地域の物語）などがあります。その他列举すると『肘折鬼と地蔵の物語』（肘折カルデラ小松淵の物語）『奥津碧溪湖ものがたり』（苦田ダム水源地域の物語）『諸美姫物語』（森吉山ダムの水源地域の物語）『早池峰権現あづまね太郎物語』（早池峰ダムの水源地域の物語）『留萌チキサニセツ森物語』（留萌ダム水源地域の物語）『小丸川の郷物語』（小丸川ダム水源地域の物語）『一布叶水物語』（横川ダム水源地域の物語）『鳴鹿郷物語』（九頭竜川鳴鹿の物語）『田上七賢人物語』（田上山砂防の物語）『お鬼怒と喜平の物語』（湯西川ダム水源地域の物語）他多数ある。

意味空間設計として創作民話だけではなく、ダム水源地域等の誇りとなる風土資産を題材とする「いろはカルタ」を多くつくってきた。『諸美姫ものがたり風土歌留多』（森吉山ダム水源地域）『田上砂防いろはかるた』（瀬田川砂防）『球磨川・川辺川風土歌留多』（球磨川・川辺川）『野洲の扇いろはカルタ』『薩埵峠いろはかるた』『幾春別川いろは歌留多』『三峰川長谷の郷いろはかるた』『京都府県「かたち」いろはカルタ』『京都府県「名前由



風土工学による絵本の創作

来』いろはカルタ』他多数ある。

『あけみおのまち名護羽地いろはカルタ』については読み札、絵札が羽地ダムの堤頂高欄部デザインに組み込まれている。又、『日本橋カルタ』についてはルネッサンス特別賞（2009年）、更には『山陰海岸ジオパークかるた』については優秀賞（2012年）等、地元関係者から表彰状等高く評価していただいた。

その他、風土資産の誇りの歌謡化が創作されたものに『ここまで来たら北海道（オロロンライン編）』（作詞：竹林征三、作曲：福澤恵介）、歌謡化や踊りが創作されたものとして『ながい百秋湖讃歌』等がある。

3. 活動の必要性

「ダムは無駄」「コンクリートから人へ」のキャッチフレーズのもとに、国家百年の計で着実に整備して行かなければならないダム事業が事業仕分けとか有識者会議とかで、ベネフィットが計算しやすいごく一部しか評価されていないにも関わらず、B/Cの評価尺度で次々事業中止に追い込まれている。ダム水源地域は治水・利水の事業の犠牲の地としてのマイナスカウントの評価だけではない。建設の目的は誇り得る水文化の価値高い地域を形成する積極的プラス評価の側面が全く忘れ去られている。ダム水源池を地域にとって誇りうる風土の宝とするためにはダム湖の名前や意味空間のソフトデザインが欠かせない。意味空間デザインとしては小説や物語、そしてイベント等が考えられる。私共の研

究所が企画した小説としては、野洲川放水路をテーマとして『野洲川物語』（前理事長田村喜子作）がある。工学手法を駆使すれば創作民話等は出来る。このようなことより多くの創作民話や讃歌・カルタをつくってきた。物語化、民話化、歌留多等は風土工学のデザインの一手法であり、創作民話ひとつひとつに秘められている地域の誇りを一人でも多くの方が認知し共有して頂くことを願ってやまない。認知共有の輪が広がれば誇り高い地域おこしへの無限の展開が開けてくる。

4. 社会の評価

社会への波及効果：小柳沢砂防公園と道の駅をデザイン対象として創作された『雫石あねっこ物語』は雫石町の自慢とする民話七話として雫石町に定着すると共に道の駅「雫石あねっこ」は地域おこしの核となっている。『阿保千方物語』は当研究所が発掘し作った。千方伝承地マップの効果もあり、地元高尾地域の人々が藤原千方の壮大な物語を地域おこしの核にする活動が活発に行われるようになった。その他の地域では創作民話を題材として、ビデオ化やいろはカルタ・讃歌創作・演劇化等いろいろな展開を見せている所も多い。『蔡温あけみお物語』は地元の人々が俳優として演劇化されたことには当方としては想定外の展開にビックリさせられました。風土歌留多も好評で地元からいくつかの賞をいただくこととなった。又、田上山五讃碑が建立された。



風土工学によるカルタ等の創作

5. 工夫した点・留意点

(1) <創作民話の作者について>

当研究所が風土工学理論とプロセスに沿って創作したものばかりであるが、その創作経緯から著者名が異なる形をとったものがある。

- ①地元の方が、当方の風土工学理論に感銘してチャレンジして創作してみたいと申し入れがあり、その方と当研究所で創作したものとして「満山ガーター物語」がある。
- ②風土工学理論で物語の骨子を組み立て、作家田村喜子先生と合作したものに「鬼翔平物語」がある。
- ③当方で風土工学理論とプロセスで、全文を作成した後、地元の元教育長の（佐々木正志）さんは風土工学理論に感銘され、自分が是非共、地元の方言等加筆させて頂きたいと1年間、自分の鞆の中に入れて、日々、声を出して読み加筆修正を重ねられて、完成させたものとして「雫石あねっこ物語」がある。
- ④その他は所長の竹林征三及び研究員が風土工学理論とプロセスを駆使して創作したものばかりである。

(2) <創作民話の絵本化についての画家について>

- ①地元の方でプロの画家にお願いしたいと頼まれたのが『鬼翔平物語』の画家「野村たかあき」である。
- ②『蔡温あけみお物語』は沖縄の地方色を強調させるために地元の方に描いて頂いた。又絵本は沖縄

の月桃紙でつくられた。

- ③その他の絵本化の画は、当研究所の活動を共に行っている会員の中に絵心がある会員がおられる。その方々に描いてもらったものばかりである。

(3) <創作プロセスについて>

- ①当該地域の風土資産（風土の宝物）を徹底的に調べる。
- ②風土資産相互間の地元のひとと、他地域の人の意識イメージの差異をマルコフのイメージウェイトの解析を経てイメージ構造化をして、地域のトータルデザインコンセプトを導き出す。
- ③コンセプトのブレイクダウンを行うと共に、発想技法とスクリプト技法等を駆使して物語の起承転結をつくる。

（註）風土工学理論については、竹林征三著『風土工学序説』『風土工学への招待』『市民環境工学・風土工学』『風土工学の視座』『風土千年復興論』等を参照。

6. 今後の展開

東日本大震災以降巨大災害の世紀に突入して『環境防災学』（竹林征三著）と『風土工学』の視座とその展開が極めて重要で不可欠であることがわかってきた。今後は「風土工学」と共に「環境防災学」の普及啓発に全力をつくして参りたい。今後の展開として

- ①「風土工学」においては風土調査がその基本であることより、各地の調査結果を「風土誌」及び「風土資



風土工学に対する新聞等高い評価

産マップ」の形で順次編纂していきたい。

②災害の世紀に突入し、よりよき環境創造に資する
真の防災の視座「環境防災学」の普及啓発に努めて参
りたい。

③土木事業の基本を支える両学の理解を深めてい
ただくために、全国各地の「風土に刻された災害の宿

命」をテーマとした講演活動を積極的に展開してい
きたい。真の安心安全国土づくりと良好風土形成を目指
す活動はますます重要になってきている。

風土工学デザイン研究所